

第5回 共同物流等の促進に向けた研究会 議事概要

日時：令和元年6月5日（水）15：00～17：00

場所：中央合同庁舎第3号館 4階総合政策局 局議室

出席者：（有識者）矢野座長、納富委員、二村委員、一柳委員、北條委員

【提言案に対する意見】

- ・課題として、物流コストが上昇しているという点やCO2など環境問題も挙げてはどうか。パリ協定では、2030年までに温室効果ガス排出量を2013年比で26%、運輸部門で28%削減するというかなり高い目標を掲げている一方、営業用貨物自動車からの排出量は増えているため、今から備えておく必要がある。さらに、営業貨物自動車の積載率は以前6割程度だったが現在は4割程度になっていることについても、背景として書いた方がよい。
- ・「今後の国の施策について」に省エネ法も追加してはどうか。去年の12月の法改正で準荷主という概念が追加され、着荷主も発荷主と協力して省エネを進めることが示されている。
- ・貨物輸送は車両の大型化などでCO2が減ってきていたが、ここ5、6年逆に増えてきているので、従来のままでは減らないということかもしれない。
- ・本提言を現場までどうやって浸透させていくのかが重要。
- ・タテの連携のサポートが大変。どの過程が大変で、どのように解決したかなどをノウハウとしてグッドプラクティスをまとめる際に記載してほしい。
- ・提言をどうすれば読んでもらえるかは重要な問題。副題をつけてみてはどうか。
- ・P6に「SDGsへの対応」とあるが、SDGsは17項目あるはずだ。その中には「住み続けられるまちづくり」といった項目もあり、過疎地物流なども含まれ得るので、もう少し取組を具体的に列挙するか、逆にCO2に限定した記載にしてはどうか。
- ・提言を公開する際に、例えば、提言内にリンクを貼って、事例を深く調べられるようにするなどして、アクセスしやすくできないか。
- ・P15に「見える化の推進」として「様々な情報を見る化」と記載があるが、どのような情報を見る化するか、例を載せて具体的に記載してほしい。
- ・最近物流の展示会でもカンファレンスなどがプログラムに入っているので、そういう機会を生かしてPRしてほしい。
- ・着荷主をどうやって巻き込むかが重要。人手不足の影響で着荷主も困っているが、なかなかお互い話せる場がない。場づくりが重要。
- ・物流だけではなく、環境問題も絡めると社内の他部門も巻き込みやすかったと聞いたことがある。
- ・荷主に対しては、「共同物流」「物流効率化」だけではなく、「生産性の向上」とい

う概念で訴えかけていかないと、なかなか刺さらないのではないか。生産性の向上、サステナビリティ、BCPなどで訴えかけたほうが荷主には刺さるのではないか。

- 「効率化」、「コスト削減」という書き方はあまり良なくて、「生産性を上げる」「持続させる」などとしたほうがいい。
- 現在の提言案には機械化は言及されていないが、標準化は機械化に資するものである。
- 提言と概要資料をどうリンクしていくかが重要。